

こんな昔ばなし知っとお?

特集 室町京町の歴史

1 京町



熱血ガンコな下駄屋さん カクシン

おたふくの大きな下駄がトレードマークの下駄屋さん「カクシン」。「下駄屋さんが少なくなってきている今だからこそ、下駄屋を残していかなとね。」と話すオーナー。名古屋と鹿児島そして、全国各地のお客さんの元に「カクシン」は下駄を届けています。オーナーは、室町の「常盤橋」の名前の復活や橋のたもとにある「広告塔」の復元も行いました。今は、「松本清張通り」を作ろうと考えているというオーナー。「歴史を知ることによって夢が膨らむよね。」と文学と歴史の町づくりに燃えています。

- 住所：京町1丁目2-6
- 電話：093-521-3309
- 営業時間：10：00～18：00
- 定休日：正月のみ(1・2日)

2 京町

平和のシンボル 赤・煉・瓦・館

レトロな雰囲気のある喫茶店「赤煉瓦館」。昭和20年3月18日、アメリカが開門海峡に機雷をばらまきました。その1つが大阪屋(今の100円ショップ)の裏庭に落下しました。この機雷は時限爆弾であることが分かり、裏庭で自爆処理が行われました。京町3丁目から5丁目の住人は避難をして爆発に備えました。19日正午、自爆処理が行われ京町4丁目北側はガレキの山になりました。しかし、湖月堂の赤煉瓦館だけは爆撃にも耐え、大正末期からの栄枯盛衰を今も変わらず物語っています。赤煉瓦館は京町の平和のシンボルです。

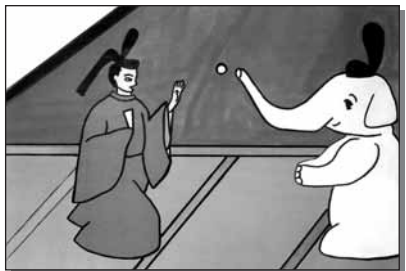
資料ご提供 / 入学治男様



- 住所：京町2丁目6-14
- 電話：093-533-7116
- 営業時間：10:00～22:00 (21:30 オーダーストップ)
- 定休日：なし

3 室町

吉宗 将軍 に愛された象 白象君物語



このイラストは、高校一年生の塚崎 賢志郎様 自作の紙芝居です。

大きいものが大好きな吉宗将軍。その将軍の献上品としてベトナムからやってきた白い象が「白象君」です。白象君は長崎街道を通り開門海峡を渡って江戸に向かいました。長崎街道中の現在の室町にある「常盤橋」を歩いた時には小倉城の将軍をはじめ町中の人々が集まり、白象君を大歓迎しました。道をきれいにしたり大好きなお酒とおまんじゅうを用意したりとまさにVIP待遇。そして、常盤橋を歩いた次の日、22人のお供と石船に乗り命がけで開門海峡を渡りました。その後、箱根の山を超え、無事江戸へ着いた白象君を見て将軍は大喜びしたそうですよ。

資料ご提供 / 長崎街道小倉城下町の会 古賀えみ子様

編集後記

カクシン・赤レンガ館・白象の3つに共通しているのは「歴史」です。赤レンガ館のようにずっと残っているもの、常盤橋・広告塔のように復刻されたもの、そして白象のように語り継がれているものです。「こんな歴史があったんだ。」と町が身近に感じられて楽しさが増えますね。さて、次はどんな発見があるのかな? 次回もお楽しみに。